

C : 審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A:自己評価シート」、「B:相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		
事業開始年度	令和2年度～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	ひらつか着地型観光推進委員会	担当課名	商業観光課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・行政と団体、それぞれの得意分野を活かした協力体制のもと、地域資源を活用した、新しい体験型の観光プログラムを開発し、ファミリー層を中心に満足度の高いイベントを実施できたことは評価できる。また、協働事業終了後も観光協会と連携することで、平塚市の着地型観光をさらに発展させる可能性が見出せたことも、事業の大きな成果だと思う。
- ・プログラム参加者の満足度 97%は非常に高く、個々のイベント内容が評価できる。
- ・平塚の新しい観光プログラムとしての工場見学やバックヤードツアーは街の特性を活かしており、オリジナリティがあり、新しいブランド力につながる。
- ・次世代の育成を考えて、親子で体験できるプログラム開発に注力した点は評価できる。
- ・実施されたプログラムはどれも好評だったと思うので、それをこの事業の「目標」に結びつけるのにはあと何が足りないのか？を引き続き検討してほしい。
- ・いろいろ厳しい条件がある中で、ねばり強く、すすめたものと思う。
- ・新しい視点で、平塚のイメージやブランドを創り出していこうとする姿勢を評価する。
- ・体験型を中心に、地元資源を活用した多様なプログラムは、人気の高かったものはシリーズ化するなどして続けても良いのではないかと思った。
- ・開催不可になったプログラムも含め、外国人旅行者も興味を持ちそうなプログラム（印章づくりや花火の打ち上げ現場潜入体験、平塚八幡宮巫女体験）もあるように思った。プログラム内容によって、情報発信の仕方を工夫する必要を感じた。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・新しいホームページには少し物足りなさも感じた。ひとつひとつのプログラムは魅力的で素晴らしいのに、全体的な印象が薄く情報量も少ないので、今回目指した、平塚市の新しい観光ブランド「街まるごと学び舎」というコンセプトをもっと活かしたビジュアルデザインやコンテンツの更なる充実を期待する。また、体験イベントを探してサイトを訪れた人たちが、すぐに参加申し込みできるように、イベント開催予告（あるいは通年プログラム）を常に紹介、表示しておくなど、次につながるような情報発信も大事だと思う。
- ・コロナの状況下でやむを得ない事情もあるが、参加者の87%が市内からであり、市外からの参加者をいかに増やすか（関係人口の増加）が今後の課題のひとつであろう。
- ・1回のプログラムの内容を詰め込みすぎない、次につながる余白を残すことが、リピーター獲得につながる。
- ・宿泊滞在型のプログラムがあってもよい。団体として旅行業の資格をとらなくても地場の旅行代理店やホテル・旅館業者との協働ができないだろうか。
- ・3年間の協働事業としての期間が終了した後、この事業をどう継続するのか？若しくは終了するのか？などの「この事業の未来」について民と官とで真剣に議論して欲しい。
- ・3～4年後に「そういえば…」といった自然消滅的な形にならない様に、ここからの更なる発展に期待する。
- ・これから何をするかを内容的にも、イメージ的にも、明確にする必要があるのではないかな
- ・実際の参加者だけでなく、成果を広く共有できるよう、ホームページの内容や誘導策をさらに改善してほしい。今後のKPIの一つはホームページアクセス数にしてはどうだろうか。
- ・すでに3か年の協働事業は終了している。観光協会や行政で事業を引き継ぐとしているものの、令和5年度の取り組みはまだ検討中との答弁があった。早急に動き出し、その状況を広く周知してほしい。
- ・令和4年度に新たなホームページを開設していますが、情報の更新があまりされていない。少なくとも、実施した事業については必ず様子を掲載し、ホームページを見た人が、ぜひ参加してみたい！と思えるよう、報告会内でのアドバイスでもあった参加者の声も掲載するなど、こまめな情報更新や情報発信が、参加者増にもつながるのではないかな。
- ・今後は、主に観光協会と連携した事業実施を模索するとのことだが、観光協会・推進委員会が別々に事業を打つのは、財源・人材共に厳しいのではと感じた。事業数を絞り、共催等の形でアイデア・人手・お金を共有することも必要ではないかな。
- ・商業観光課がこの「着地型観光」を本市事業にどのように位置づけるのか、もう少し明確にする必要あるように感じた。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		
事業開始年度	令和2年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	認定NPO法人 フードバンク湘南	担当課名	環境政策課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

・「環境」と「福祉」、ふたつの異なる分野で連携して、今取り組むべき重要な社会的課題の解決に果敢に挑戦してきたことは高く評価します。

・最終年度、企業への周知・啓発に力をいれ、SDGsの理念に賛同しフードバンク活動に協力してくれる企業との繋がりを増やす、という共通の目的・目標達成に向けて、対等な立場、適正な役割分担で取り組むことができたのは良かったと思います。

・WEBアプリと税制メリットを結びつけたところは行政との協働ならではの。

・コロナ状況下での営業方法（DM発送やスマホ対応など）に工夫が見られた。食品ロスの削減と貧困解消という2つの問題を解決するための素晴らしい取り組みだと思うので協働した双方の更なる協力発展を希望する。

・経済的困窮の人への対応についても、きちんと対応されたことと思う。

・3年間の取り組みの中で、営業戦略の見直しなど、市民活動団体の特性を生かして臨機応変に様々な工夫、変更がなされたことを評価する。

・食品ロスの削減と貧困対策と2つの効果を持ち、現在の社会課題に対応した事業であり、物価高騰の影響などで増加する生活困窮世帯への支援という面では、当初の主目的とは離れた部分ではあるが、社会的意義は大きいものと考えている。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・今回の協働事業で開発した WEB アプリを企業側が導入するには様々な高いハードルがあるようですが、今後も行政が間に入り、メリットをわかりやすく丁寧に説明するなど、活用してもらえそうな継続的な働きかけが必要だと思います。
- ・一方で、将来的に団体が WEB アプリの利用料で自立した運営をするという当初目標の達成は現実的ではないかもしれません。「相対的貧困解消」の課題については、ボランティアなフードバンク活動に一任するのではなく、様々な関係機関との連携も図りながら、平塚市としてしっかりと対応して行ってほしいと思います。
- ・アプリの利用料が伸びない原因の深掘りが必要かもしれない。参加企業のメリット、利用額の妥当性、食品関連業者以外への営業対象の拡大、広報の検討など。
- ・基本的には企業を対象にした事業だが、食品ロスに対する市民の関心を喚起する意味で一般家庭からの寄付も受け付けてはどうか。そのために行政側の協力が不可欠だと思うが。
- ・生活困窮世帯の把握はどのように行っているのか。困窮者へのアプローチは十分にできているのか。
- ・3年間の協働事業としての期間が終了した後、これまでの経験を基に、この事業をどう継続するのか？若しくは終了するのか？などの「この事業の価値」について民と官とで真剣に検証・議論して欲しい。
- ・経済的困窮への対応は、団体だけではできないと思われるので、市役所の福祉部局と今後の展開を展望することが必要ではないか。
- ・公費支出は必要だが、同時に、食糧支援は経済的困窮への早期対応を意味し、それを含めた支援を市役所には考えて欲しい。
- ・相対的貧困解消という切り口から、3年間の取り組みの中で違うアプローチを見いだせていたら、今後の展開が変わっていたかもしれない。
- ・協働事業は終了するが、事業の先にある目的（食品ロス削減、相対的貧困解消）に向けて、引き続き、団体も行政も新たな展開を模索して行ってほしい。
- ・団体の運営費用として、WEB アプリの使用料を充てるための十分な事業者を獲得できなかった点は、事業を継続していくうえでも大きな課題である。せつかく費用をかけて開発したアプリなので、引き続き利用企業増に向けた取組に力を入れてほしい。
- ・子ども食堂とのつながりをより深めた方がよいのではないか。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業		
事業開始年度	令和3年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人 湘南NPOサポートセンター	担当課名	協働推進課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・3か年の事業計画をベースに、アンケート調査や直接の意見交換を通して地域の声をしっかりと聴きながら、現場のニーズに対応する形で、事業の実施内容や手法などを見直し進めている点が良いと思います。

- ・ひらつか市民活動センターの運営や地域づくり大学等の実績に基づく団体のノウハウを十分に活かしていること、行政職員が「団体の経験やスキルを学ぶ機会を得ることができた」と評価していることなど、相乗効果が生まれていると感じました。

- ・自治会アンケートを行うことで課題の見える化を図ることができた。

- ・自治会をUPデートする様々な試行に期待が持てる。

- ・地域活動を自分ごととして捉えるのに「防災」の切り口は有効です。

- ・地道にきちんとすすめていると感じている。

- ・なんとなく捉えていた課題を、データやアンケートなどで数値化、見える化したことはとても効果的である。

- ・団体（の構成員）の強みを生かし、都市マスタープランの地域区分に対応して自治会アンケートを再整理したことは大変ユニークで、高く評価する。また、その取り組みは当初の予定にはなく、事業を進める中で意義を見出し、始めたとのことで、柔軟な市民活動団体の特性が生かしている。

- ・アンケートにより地域の問題をあぶり出し、「人口増加時代の仕組みの転換」や「リーダーより事務局の育成」の必要性を明らかにしたことは、これまで皆が漠然と感じていたことを見える化した意味で有意義である。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・成果物の「ひらつか地域活動の仕組みづくりノート（仮称）」については、親しみやすいデザインやわかりやすい表現に加え、地域活動の楽しさ、面白さが感じられるような紙面づくりを期待しています。
- ・コロナ禍によって住民の地域滞在時間が相対的に長くなった。これにより住民が地域活動や地域の課題に関心を持つ機会が増えてきたと言えるのではないか。見方を変えれば、高齢化に悩む自治会組織に現役世代を巻き込むチャンス、事務局人材獲得のチャンスと言えないだろうか。
- ・平塚の特徴である地域の拠点としての公民館をこれまで以上に活用してほしい。
- ・これまでの取り組みで、想定していた問題点や新たに見つかった案件等、すべての地域が抱えている案件や、地域ごとに抱える問題点等が見えてきたと思われるので、今後は、それぞれの地域の活動がより活発に行いやすくな様なヒントや投げかけを行いながら、地域の方々と一緒に、この事業の目的である「仕組みづくり」を完成させてほしい。
- ・市役所と地域団体との会話を徐々に始めてはどうか。
- ・社会環境の変化に対応した、地域と行政との新たな対話の仕組みづくりは、大変重要な課題である。事業の方向性を継続するとともに、さらなる創意工夫を期待している。
- ・得られた知見を他の地域で横展開することが、協働事業の成果となると考えている。最終年度となる今年度は、その先も見据えた中での事業展開となることを期待している。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業		
事業開始年度	令和4年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人ぜんしん	担当課名	農水産課 農業委員会事務局

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など

- ・団体、行政ともに、事業の目的を共有し、適切な役割分担、対等な立場で、しっかりと協議しながら丁寧に事業を進めていること、事業提案書の成果目標値を概ね達成したことなど、とても素晴らしいです。
- ・さらに、この事業を通じて4名の若者が自立に向かったことは、当事者目線で若者ひとりひとりに寄り添い段階に応じてきめ細やかに支援する、団体による長年の活動の成果だと思います。
- ・体験からいきなり就農はハードルが高すぎるので、時間をかけて丁寧なステップを踏む必要があると感じた。
- ・後継者不足という農業の深刻な問題と引きこもりの若者の社会復帰？支援の取り組みという2つの問題解決に同時に取り組む事業という点では全国に先駆けたとても素晴らしい発想だと思う。
- ・ひきこもりの人の特性をよく踏まえながら、着実に成果をあげていると思われる。何より、実施している作業が適しているのではないかと、という仮説が証明されつつあるように思われる。
- ・図書館での活動などの経験を踏まえ、就労に結び付ける事業として、一歩前進している。
- ・事業名に「若者」と入っているが、50代からの問い合わせもある、今年は女性が3人参加していると聞き、さらなる広がりが期待できる事業だと感じた。
- ・事業への参加者が、就労や進学という形で自立につながったことは素晴らしい。

(2) 課題の改善や今後への助言など

※ 改善して欲しい点や今後の事業展開へ向けてのアドバイスなど

- ・ 神奈川新聞の社説でも取り上げられたように、ぜひ「平塚モデル」の構築、実現に向けて取り組んでほしいです。この事業の理解者、協力者を増やしていくとともに、団体が事業を継続できるような財源確保の仕組みづくりやスタッフ育成などの課題について、行政としても積極的にアイデアを出し検討を進めていってほしいと思います。
- ・ 次年度の事業継続が危ぶまれている点が気になりました。担当課とのコミュニケーション不足を感じたのですが…。
- ・ 体験プログラムが単純な農作業に偏っているのではないのでしょうか。農家に足りないスキルを若者の特性（企画力、デザイン力、ICT など）で補うという経験、機会が設定できるとなお良いと思います。
- ・ 全国的にも注目されそうな先進的な取り組み方であるにも関わらず、効果の検証すら出来ていない段階で一緒に事業展開をする筈の一方(行政側)が撤退してしまうのはとても残念に思う。せめて団体と担当課がこれまでの協働の経験を生かして「この事業の双方の目標に向けてそれぞれが今後どのように取り組んでいくのかを審査会に伝えてほしい。
- ・ 民と官で行う「共同事業」という「これからのまちづくりの仕組み」自体のあり方を見直す必要があると思う。
- ・ 実現性を踏まえて、一挙には行かなくても、確実に次のステップに進むことができるのではないか。
- ・ 「今後、協働事業としてはやらないが、協働は継続する」という発言があった。その場合、特に団体の事務作業などの負担を誰がどう負う（支援する）か、団体、行政、関係者でよく検討してほしい。
- ・ 本事業が、農業の課題である労働力不足を補う効果があったという点から、事業継続のための資金を、湘南ライスセンターからの賃金という形で、一部でも得ることができるような仕組みが望ましいのではないか。